

群 教 セ	G14 - 02
	平17.228集

# 思いや願いを生かし、対象に働きかける 総合的な学習の時間の指導

- ウェビングマップを活用した交流活動を取り入れて -

特別研修員 樺澤 俊哉 (前橋市立第五中学校)

## 《研究の概要》

本研究は、ウェビングマップを活用した交流活動を取り入れることによって、思いや願いを生かし対象に働きかけることの重要性を感じることができるようにしたものである。具体的には課題を設定する場面と学びを振り返る場面においてウェビングを行い、ウェビングマップを基に生徒が様々な意見を交流させることで、対象に対する興味・関心を高めたり、学びの成果を確かめたりすることができるための指導の工夫を行った。

**キーワード** 【総合的な学習の時間 - 中 思いや願い ウェビング 交流活動】

## 主題設定の理由

これからの変化の激しい社会に主体的に対応できるよう、自ら学び自ら考えるなどの「生きる力」の育成が大きな課題として取り上げられている。総合的な学習の時間（以下、総合的な学習）においても、対象への思いや願いをもち、その実現に向けて自己の生き方を考えるとともに、ねらいに示されている課題解決に主体的に取り組むための資質能力の育成と学び方を身に付けていくことが、「生きる力」の育成につながっていくものとする。

総合的な学習は、地域を学びの場とし、学びの対象としている。地域の人、もの、ことへの思いや願いをはぐくみ、生徒一人一人が切実な問題意識をもって、対象に働きかけていく問題解決的な学習を展開していくことが重要である。地域の対象への思いや願いは、これまでの生活経験や学習経験及びそれらから培われた見方や考えから生じたものであり、価値あるものである。その実現に向けて自分なりの見通しや活動の方向性を見付けていくことで、こだわりをもって主体的に対象へ働きかけていくものとする。

本学年（中学校3年 男子93名 女子52名 計145名）の生徒は、2年間にわたり総合的な学習を行ってきており、学習の進め方については理解しているものの、ダイナミックに活動を展開できず、単なる調べ学習に終わってしまい学びが深まらなかった。

これまでの指導を振り返ると、対象とかがかわるための機会や時間を保障できず、生徒が対象への思いや願いをもつことが弱かったと思われる。そのために生徒は、本当に自分が追究したい、追究の価値があると思えるような課題を見付けることができなかった。また、学習の流れは分かっている、自分なりの見通しや活動の方向性を見付けられるようにするための、教師からの支援が不足していたために、これまでの追究活動においては、事象を多面的にとらえられず、学びが深まらなかったり、表面的な追究活動に終始してしまったりしていた。

そこで、本研究では、活動の見通しや方向性を見付けたり、学習の成果を確かめたりできるようになるためのウェビングマップを活用した交流の場の設定を行うことを考えた。

具体的には「つかむ」過程で教師が中心となり共通テーマにおいて「全体ウェビング」を行い、そのウェビングマップを基に生徒同士で意見交流を行う中で、対象へのイメージを広げたり深めたりできるようにする。次に、自分のテーマとした方向性に分かれ主担当の教師と「コースウェビング」を行い、ウェビングマップを基に生徒同士で意見交流を行い、対象への興味・関心をもてるようにする。さらに、課題を焦点化するために、生徒の興味・関心を基にさらに少人数化したグループにおいて、意見を交流させながら「グループウェビング」を行う。その際教師は、追究活動が深まり、対象についての調査・分析活動がより充

実したものになるようにするために、対象を様々な角度から見つめられるような視点の例示を行い、追究課題を明確にし、追究活動の見通しがもてるようにする。

課題追究を経て、最後に「まとめる」過程では、追究結果を踏まえてテーマについて、生徒同士で対象への思いを交流させながら再度ウェビングを行い、「つかむ」過程でのウェビングマップと比較・検討する。これまでの学びを振り返り、ウェビングマップの全体的な広がりやその方向性、深まりなどを関連付けることで、学びの達成感を味わい、思いや願いを生かし対象に働きかけることの重要性を感じることができるようになる。

以上のことから、思いや願いを生かし対象に働きかける生徒を育成するためには、ウェビングマップを活用した生徒の交流活動は有効であると考え、本主題を設定した。

#### 研究のねらい

総合的な学習の指導において、活動の見通しを見付けたり学習の成果を確かめたりできるようになるためのウェビングマップを活用した交流の場を設定することで、思いや願いを生かし対象に働きかけることの重要性を感じることができるようになることを、実践を通して明らかにする。

#### 研究の見通し

1 「つかむ」過程では、友達と思いを交流させながら「全体ウェビング」、「コースウェビング」、「グループウェビング」を行うことで、対象に対する興味・関心が高まり、追究課題と追究活動の見通しが明確になるであろう。

#### 2 研究の方法

研究の見通しに基づき、次のような方法で授業実践を行い、検証する。

##### (1) 授業実践計画

対象	前橋市立第五中学校 3年 145名(男子93名 女子52名)		
期間	平成17年6月～11月 23時間予定	単元名	共に生きる魅力ある地域を考えよう
授業者	前橋市立第五中学校 3年教諭6名		
抽	【A男】新しいことに興味・関心をもったり、新たに課題を見付けたりすることがあまり得意ではない。意見交流に参加をすることにも消極的なので、興味・関心をもつためのきっかけとなるようなアド		

2 「まとめる」過程では、追究課題について思いを交流させながら再度「グループウェビング」を行うことで、これまでの学びに対して達成感を感じ、思いや願いを生かし対象に働きかけることの重要性を感じることができるようになるであろう。

#### 研究の内容と方法

##### 1 研究の内容

(1) 思いや願いを生かして対象に働きかけるとは  
「思いや願いを生かして対象に働きかける」とは、生徒がこれまでの生活経験や学習経験で培われた見方や考え方から生じた対象への思いや願いをもち、切実な問題意識をもって、対象に主体的にかかわることが重要であると感じ、問題点の解決のために行動に表そうとする姿であると考え。

(2) ウェビングマップを活用した交流活動について  
共通テーマを基に教師が中心となり学級全体で行う「全体ウェビング」、自分のテーマとしたい方向性に分かれ主担当の教師と行う「コースウェビング」、教師側から課題を焦点化できるような視点を与え、6人程度のグループで行う「グループウェビング」において、ウェビングマップを活用して、生徒一人一人の対象への思いをお互いに伝え合うことができるような交流の場をそれぞれのウェビングの場面において設定したいと考える。その際教師は、追究する価値のある課題を見付けることができるように、どのような活動を通して課題を解決していこうとしているのか、またその見通しが明確にもっているのか、といった点に留意しながら視点を例示するようにするなど、教師と生徒との交流活動も活発に行えるようにする。

出生徒	<p>パイスや視点の例示をしていきたい。群馬県立文書館グループを選択。</p> <p>【B女】与えられた課題に対して主体的に取り組んでいるが、交流活動の際に自分の考えを他の生徒に伝えたり広めたりすることに消極的である。班の中でリーダー的な役割を果たし、交流活動が活発に行えるようにアドバイスをしていきたい。群馬県生涯学習センターグループを選択。</p>
-----	--

(2) 検証計画

検証計画	検証の観点	検証方法
見通し1	「つかむ」過程において、教師が対象を様々な角度から見つめられるような視点を例示し「全体ウェビング」、「コースウェビング」、「グループウェビング」を行い生徒同士の思いを交流させることは、地域に対する興味・関心を高め、追究課題を明確にし追究活動の見通しをもつために有効であったか。	自己評価用紙 行動観察
見通し2	「まとめる」過程において、追究結果について生徒同士で地域に対する思いを交流させながら再度「グループウェビング」を行うことは、これまでの学びを振り返り、学びの達成感を味わい、思いや願いを生かして対象に働きかけることの重要性を感じることができるようになるために有効であったか。	自己評価用紙 行動観察

研究の展開

1 単元名 共に生きる魅力ある地域を考えよう

2 単元の考察

<p>本単元は、本校の内容系列表（資料編P4）にある「地域」に基づいて設定した。「共に生きる魅力ある地域を考えよう」というテーマのもと、生徒は自分たちの住んでいる地域を様々な角度から見つめ、地域の魅力を検証することを通して地域の抱える問題点を探り、それを解決していこうとする活動を行っていく。こうした活動を通して、地域に対する生徒の興味・関心が高まり、地域のために働きかけていくことの重要性を感じるなど、地域との共生について考え、問題点の解決に進んで取り組むようになるであろうと考えた。</p> <p>生徒は地域の魅力として「公共施設」、「地域交流」、「商店」、「安心・安全」、「自然」、「交通機関」、「歴史」などを挙げると考えられる。その中で本研究においては、これ以降「公共施設」に視点を当てて進めていくものとする。</p>
---

3 単元の目標及び評価規準

目標	<p>地域の公共施設の魅力を検証するとともに地域の公共施設にかかわる課題を探り、それを解決する手段を考える活動を通して、公共施設の役割と今後さらに有効に利用されるための在り方について理解し、地域との共生のために地域に働きかけることの重要性を感じ、問題点の解決に進んで取り組むことができる。</p>
評価規準	<p>地域の公共施設に関心をもち、魅力を検証したり、公共施設にかかわる課題を解決する手段を考えたりする活動に、主体的に取り組もうとしている。（関心・意欲・態度）</p> <p>地域の公共施設と自分たちの生活とのかかわりから、その存在意義や有効利用の面からの問題点を探る活動を通して、地域との共生のために地域に働きかけることの重要性を感じたり、問題点の解決方法について考えたりすることができる。（思考・判断）</p> <p>聞き取り調査や情報機器の活用などから、公共施設と自分たちの生活とのかかわりについての情報を収集し、必要なデータを客観的に調査・分析し、目的に応じて発信することができる。（技能・表現）</p> <p>公共施設の役割について知り、自分たちの生活と深く結び付いていることを理解する。（知識・理解）</p>

4 指導と評価の計画(全23時間予定)

時間	学習活動	支援及び指導上の留意点 支援を要する生徒に対する支援	見取りの視点 (評価方法)
1	これまでの1、2年次における地域を通じた総合的な学習の時間の学びについて振り返る。	全体ウェビングでは、自由な発想のもとに様々な思いを巡らすために、1、2年次での学習を想起することができるような助言をする。	
つかむ	<b>見通し1</b> 各クラスごとに「地域の魅力は?」というテーマで全体ウェビングを行い、個人ごとにテーマとしたい方向性を決める。 ウェビングマップを見て、思いを交流する。	これから学習していく「地域」に対するイメージを広げ、自分の興味に基づいてテーマを選ぶために、意見交流に進んで参加することができるようにする。 「地域」を広範囲ではなく、「自分の住んでいる家の周り」といった身近なイメージでとらえるように助言をする。	(関) 地域に対するイメージを、広げようとしている。 (自己評価用紙への記述内容、行動観察)
	全体ウェビングの結果を基に、地域の「公共施設」をテーマとして、コースウェビングを行う。 ウェビングマップを見て、思いを交流する。	公共施設に対するイメージを深め、興味・関心をもつことができるようになるために、意見交流に進んで参加したり他の生徒の意見をよく聞いたりすることができるようにする。 よく使う公共施設を思い浮かべ、その施設の感想や印象を書くように助言をする。	(関) 地域の公共施設に対するイメージが深まり、興味・関心をもとうとしている。 (自己評価用紙への記述内容、行動観察)
	同じテーマ(公共施設)の中で6人程度のグループを作り、コースウェビングのマップから課題を決め、グループウェビングを行う。 グループごとに公共施設の魅力を検証するための追究課題とその理由、追究活動の見通しについて考える。	追究活動の見通しがうまくもてるようにするために、次の点に留意する。 教師も含め共感や反対、付け加えなどの生徒一人一人の思いを交流させながらグループウェビングを行うようにする。 教師は、追究課題を焦点化できるような視点の例示を含めたアドバイスを行う。 (例示の具体) ・その施設について知っていること、利用したときの感想、必要性や存在意義、他の施設との関連など 課題とした施設について、知っていることと知らないことをはっきりさせるように助言をする。	(思) 公共施設とのかかわりの中から追究課題を見つけ、追究活動の見通しをもつことができる。 (自己評価用紙への記述内容、行動観察)
追究する	11 課題追究に向けた調査・分析活動を行う。 地域の公共施設の魅力の検証 地域の公共施設にかかわる問題点を明らかにし、解決方法を考える。	追究課題についての調査・分析活動がより客観的なものになるために、追究課題を様々な角度から見つめられるような視点の例示を行う。 収集し整理したデータが十分かどうか、視点を例示しながら一つ一つ確かめるようにする。	(技) 追究課題解決のために必要なデータを、客観的に調査・分析することができる。 (自己評価用紙への記述内容、行動観察)
まとめる	<b>見通し2</b> 追究結果を基に追究課題についてウェビングを行い、「つかむ」過程で行ったグループウェビングのウェビングマップと比較・検討し、地域の公共施設の役割について考える。	マップの全体的な広がりやその方向性、深まりなどを比較し、地域に対する思いを交流させながらこれまでの学びを振り返ることで、公共施設の役割について理解できるようにする。 その公共施設がないと、どのような点で不便なのか、使用する側の気持ちになって考えるように助言をする。	(知) これまでの学びから、地域の公共施設の役割について理解する。 (自己評価用紙への記述内容、行動観察)
	4 追究結果をまとめる。	思いや願いをもって地域に働きかけることの必要性を感じるために、文化祭やHPを通して、地域に対して今後こうなってほしいとかこんなふうに関わっていきいたいといった、学習を通して培った自分たちの思いを発信することができるようにする。 地域の魅力がさらに増すために、自分は何ができるのか考えるように助言をする。	(思) 思いや願いをもって地域に働きかけることの必要性を感じ取ることができる。 (自己評価用紙への記述内容、行動観察)

研究の結果と考察

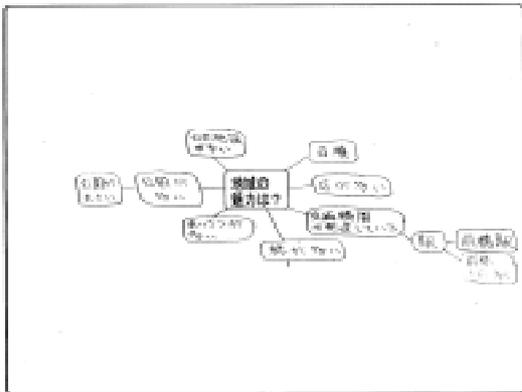
1 「つかむ」過程において、教師が対象を様々な角度から見つめられるような視点を例示し「全体ウェビング」、「コースウェビング」、「グループウェビング」を行い生徒同士の思いを交流させることは、地域に対する興味・関心を高め、追究課題を明確にし追究活動の見通しをもつために有効であったか  
生徒は1・2年次にそれぞれ「地域と福祉」「地域と国際理解」という単元を学習してきており、福祉や国際理解の視点から地域に対する理解

を深めてきている。そこで3年次では、1・2年次での学びを生かし、さらに深く地域に目を向けるためのきっかけとして、地域の魅力について考え、それを検証していく活動を取り入れた。

A男は「地域の魅力とは何か」をテーマとして行った全体ウェビングでは、しばらくの間何も書けずにいた。ここではこれまでの地域に対する学びを想起するために、思いついたことを自由に述べ合うことを交流の場としてとらえた。そこで他の生徒の「公園が多い」や「交通機関が発達している」という意見を聞く機会をつくってみたが、

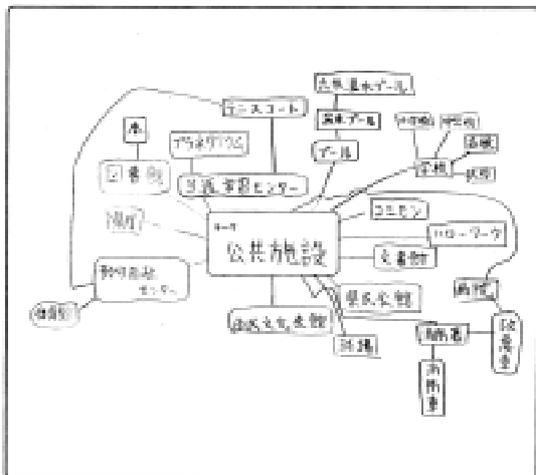
A男にはそれが魅力とは結び付かない様子であった。この時点ではA男は意見交流に対して非常に消極的であり、地域に対してあまり興味をもてない様子であった。そこで「五中の周りを想像し、他には見られないものや便利だと思うものは何か話し合ってみよう」とアドバイスをしたところ、交流活動の中で「自分が住んでいる場所より建物（施設）が多い」というイメージをもつことができ、よく利用する施設があることから公共施設をテーマとして選んだ（資料1）。

資料1 A男の全体ウェビングマップ



その後に行った公共施設をテーマとしたコースウェビングにおいて、教師の「これらの施設はだれが作ったのか」という視点の例示をもとに交流活動を行ったところ、他の生徒から「市や国が税金で作った」という意見が聞かれた。それによりA男の興味は「この地区だけでも同じような施設がたくさんあるが、本当に必要なのか」という点に移っていった（資料2, 3）。

資料2 A男のコースウェビングマップ



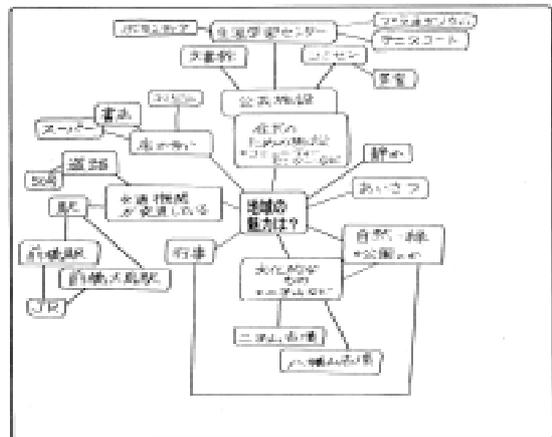
資料3 コースウェビング後のA男の感想

市民の税金で建てられているのに同じような施設が溢れてしまっていてもったいないかなど思ったり、ユースセンターもこのように市民の税金で建てられているのを見てもっとあるところも思っているのかなど思う。もし直しても利用者が少ない意味はないと思う。

その後のグループウェビングでは、「群馬県立文書館」（以下文書館）を選択したが、文書館に対する知識がなく、ウェビングマップはあまり広がらなかった。その後の交流活動の中で、他の生徒から「文書館は県が作った施設なのに、中学生には全く知られていない」という意見が出された。それに対しA男は「無駄な公共施設が多いと言われていたので、文書館がなぜ必要なのか明らかにしていきたい」という追究課題をもつことができ、追究活動に移っていった。

B女は全体ウェビングにおいて、交流活動に加わることはなかったが、他の生徒の意見を参考にしながらウェビングマップを広げていった。その中で公共施設が様々な方向に広がっていくことから、公共施設の多さに関心をもった（資料4）。

資料4 B女の全体ウェビングマップ



その後のコースウェビングでは、B女は交流活動に慣れてきたことから、以前よりも進んで意見交流に参加をするようになった。コースウェビングの後、教師が「公共施設はいくつかに分類できそうだ」という視点の例示を行い、それをきっかけとして再び交流活動へと移っていった。生徒にとっては難しい質問だったようで、交流活動はなかなか進まなかったが、B女から「自分たちのふだんの生活とのかかわりから考えて分類をするこ

とができそう」という意見が出され、B女の意見を基に生徒同士で話し合いを行った。その結果、「教育」「商店」「イベント」「安全」「スポーツ」「福祉」の6つに分類をしたが、教師の「イベントを行う施設は広い意味で生涯教育に含まれる」というアドバイスから、最終的には「教育」「商店」「暮らしを守ったり支えたりするもの」「スポーツ」「福祉」の5つに分類をすることができ、他の生徒もこれに賛同した。その後B女は、「様々な種類の公共施設があるが、それぞれの公共施設が自分たちの生活とどのように関わっているのか、もっと明確にしてみたい」という追究課題をもち、「群馬県生涯学習センター」（以下生涯学習センター）を通して、追究活動を行っていくこととなった。

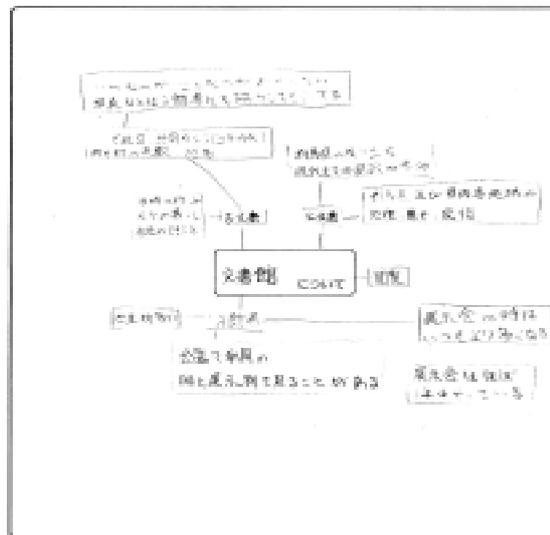
生徒によるウェビングだけでは、ウェビングマップの広がりや偏りが見られ、思考が深まらず興味・関心を高めることにつながっていかないことがある。しかし教師がアドバイスをしたり、方向性を例示したりすることを通して交流活動を行うことで、生徒の思考は広がりや深まりを見せた。さらに交流活動によって出された様々な意見の中から、追究課題とその見通しも徐々に明確になり、スムーズに追究活動に移行していったと言える。これらのことから、三つのウェビングを通して教師が対象を様々な角度から見つめられるような視点を例示し生徒同士の思いを交流させることは、地域に対する興味・関心を高め、追究課題を明確にし追究活動の見通しをもつために有効であると言える。

2 「まとめる」過程において、追究結果について生徒同士で地域に対する思いを交流させながら再度「グループウェビング」を行うことは、これまでの学びを振り返り、学びの達成感を味わい、思いや願いを生かして対象に働きかけることの重要性を感じることができるようになるために有効であったか

追究活動を始める段階では、A男の文書館についての知識は全くと言っていいほどなかった。しかしそのために、A男の文書館に対する興味・関心は授業を重ねるごとに高まり、文書館に何度も足を運び、進んで情報の収集に取り組んでいた。教師の「この施設の作られたきっかけや目的は何か」という視点の例示に対し、はっきりと回答することができなかつたので、再度文書館を訪れ調査活動を行った。追究活動後のグループウェビ

ングでは、これまで学んだことの中から特に文書館の利用のされ方について進んで意見を出し合った。また、調べてきたことを基に積極的に意見を交流させながらウェビングマップを広げていくことができた。

資料5 追究活動後のA男のグルーウェビングマップ



A男は特に歴史的に貴重な資料をたくさん保管しているだけでなく、地域に対して資料を進んで公開、提供している点を取り上げ、施設の貴重さについて中学生としての視点から気付くことができた。さらに、利用者があまり多いとは言えないこと、また中学生にも進んで利用してほしいという願いから、発表会では文書館の役割とあわせて、中学生から一般の方まで気軽に利用できる施設であるという良さをアピールしていた。「知らないうちにいるいろいろなことを学んでいたことに驚いた。歴史を振り返る上で大変貴重な施設なので、もっと有効利用するべきである。またこれから中学生があまり利用していない他の公共施設についても調べてみたいと思った。」という感想をもったことから、地域における公共施設の重要性に気付くことができた。

生涯学習センターはプラネタリウムや科学館、ホールなど様々な施設があり、B女は小学生の時から何度も利用してきた施設である。B女はこれまでの知識と現地調査から、他にも茶室や学習室など利用者の目的にあわせて様々な場や情報を提供していることを確認することができた。さらに教師からの「様々な立場の人に利用してもらうために、場や情報の提供以外にどのような工夫をしているのか」という視点の例示に対して、教師も

